

日本共産党のおだぎりたかしです。通告に従い、大きく3点お聞きします。

まず第1、市長の政治姿勢について、2点お聞きします。

一つは、事業系ごみの出し方の見直しについてです。

昨年末の議会一般質問に続き、お聞きします。議会最終日の議会決議の採決、その後の担当課の取り組み、説明を受けた方々からの反応や疑問をお聞きしてきました。結論を言えば、今度の事業系ごみの出し方変更は、廃物行政の根幹と言える「市民との協力・協働」「収集運搬事業者との信頼関係」を壊しかねず、丁寧さを欠いた事前の準備不足による不要な混乱だと強く指摘するものです。

そこでお聞きします。事業系ごみの出し方の見直しについて、対象が広範囲で、かつ影響も大きく、そのうえ効果見込みも効果の検証も数値で再度示して頂き、どのような費用対効果があるのでしょうか。また、事業系ごみの出し方変更に伴う市の経費はR6年度総額いくらと試算し、R5と比較していくら増額していますか、見積もりにあたって「予算編成の示達」通り、市外事業者含め3社以上から見積もりを取っているのですか、お答えください。

さらに現時点で、さらなる協議が必要としていると捉えているが、市長の見解をお聞かせください。併せて市長会派懇談会でも率直に市長としての調整の必要性を指摘しました。副市長からは、千葉県からの指導や近隣市で既に導入済みという説明をお聞きしましたが、これは事実ですか？県の指導や通知はいつ、どの課の誰からのものですか、明確な市長の見解をお聞きします。

次に、旧割烹新川屋については、一括してお聞きします。

予算編成方針の一般質問時も触れましたが、市長の方針変更がない限り、巨額な経費をかけた改修になりかねません。そこでお聞きします。(ア) 庁内協議はどこまで行われ、5億円の改修を前提としないという趣旨の市長答弁はどこまで守られているのか。(イ) そもそも、施設の将来的活用策について市長はどう考えているのか。見解を求めます。

次に第2、地域経済対策について、執行部では一番長きに地域経済を見届けられてきた副市長に一括してお聞きします。

(1) 流山市企業動向調査第1回(2023年度上期)では、市内各事業所における景況感や従業員の賃上げ等についての意向や動向が示されたが、どう分析していますか。(2) コロナ禍及び物価高騰に係る本市の経済対策は、事業費ベースで松戸市の2割弱、柏市の1割弱程度と脆弱なうえ、法人市民税法人割は、各法人の資本力に関係なく、超過課税を40年以上にわたり賦課し続けている。地域経済への振興策について、抜本的に見直す必要があると私は捉えていますかどうか、副市長の見解を求めます。

次に第3、防災対策の充実・強化について5点、お聞きします。

まず（ア）被災された能登町への支援や現地との聞き取りを踏まえ、本市の防災対策として今後充実すべき点や課題をどのように今後の業務に活かすのか、まず答弁を求めます。

次に（イ）流山市事業継続計画は、平成25年2月に策定し、平成29年3月一部修正をしましたが、それから7年が経過しました。また人口も、高齢化率も増加しており、修正・改訂作業が必要と捉えていますかどうか、答弁を求めます。併せて、能登半島地震は、1月1日午後4時10分頃、本市で同日、同時刻に同じ地震が発生した場合、少なくとも3時間後には市職員はどの程度市役所に参集することができるのでしょうか、また約半日後の翌朝、24時間後の翌日夕方の職員参集が実際可能だったのか、緩やかにでも把握しておく必要があるのではないのでしょうか。

次に（ウ）避難所対策について、引き続き充実を図る継続的取り組みが必要と捉えているがどうか、お答えください。併せて2点のお聞きします。一つ、段ボールベッドなど流通備蓄という本市の位置づけでは、流通が回復しない限り、不便を強いるという市の意思表示と認識で良いのでしょうか。二つ、本市は、地域自治会を巻き込んで学校毎の避難所運営マニュアルを様々策定していますが、私は避難所に避難された被災者心理、マニュアルに記載された方の被災状況や心身の状況を加味すれば、画一的なやり方には無理があると考えます。少なくとも、避難された被災者の自治権を否定したり、行政職員によるサポート体制を早期に打ち切るためのマニュアルではないことを確認する必要がありますがどうか、お答え下さい。

次に（エ）上下水道の耐震化（能登町のような行政区域全体での被害の場合、どのような手立て、手順が必要なのか、共有しておく必要がある）については、現在進捗、老朽管の交換や耐震管への入れ替えはどこまで進み（距離ベース・面積ベース）、今後の計画はどうなっているのですか、お答えください。また、トイレでは、携帯トイレの備蓄、マンホールトイレの設置数と開設し、使用できるまでの日数はどの程度かかるのか、仮設トイレは何台確保され、それらは洋式化されているのか確認します。お風呂等では、現地では循環型シャワーも注目を集めていますが、それらの確保についてもどうなっているのでしょうか、あわせてお答えください。

次に（オ）ボランティアについてです。被災状況にも左右されますが、ボランティアの受け入れは、被災家屋の片づけや災害ごみの分別、避難所の炊き出し、子どもの心のケア、被災者の心身のケアなど平穏さを取り戻すためにはなくてはならない支援と言えます。そこで、ボランティアの受け入れ態勢をどう構築しているのでしょうか、答弁を求めます。